

全国・県学習状況調査における生徒の結果分析（1年）

全体の概要	
国語	全体の正答率は県平均とほぼ同じとなっている。しかし、領域別に見ると他の領域では上回っているものの、「話す・聞く」と「読む」に関しては県平均を下回っており、話すこと・聞くこと、読むことに関して苦手意識を持つ生徒が多いようである。

分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項	
話す	「話す・聞く」に関しては、正答率では県平均を下回っており、要努力の範囲にとどまる生徒が多い。	➡	「話す・聞く」活動を授業でも多く取り入れ、定期テストでも聞き取り問題を実施したい。
書く	「書く」ことに関しては県平均を上回っており、書く力については小学校での学習で、ある程度は身につけているようである。	➡	様々な文章を書く内容を授業でも多く取り入れ、書くことへの抵抗感を減らしていきたい。
読む	「読む」ことに関しては、正答率では県平均を下回っており、長い文章を読むことへの苦手意識があるように感じられる。	➡	授業でも繰り返し文章を読む習慣を身につけることにより、「読む」ことへの苦手意識をなくしていきたい。
技能知識	漢字の読み、書きや語句に関する知識は県平均を上回っており、特に漢字の書きに関しては正答率が高い。	➡	引き続き毎日の漢字の課題と小テストの継続で、さらに向上を目指したい。

全体の概要	
数学	全体の正答率は県平均とほぼ同じである。また、正答数の度数分布を見ると平均値あたりに集中しており、散らばりの度合いが少ない集団であると言える。領域別に見ると「数と計算」はほぼ同じで、「量と測定」、「数量関係」で県を下回っている。問題形式別では「記述式」での無解答が多い。

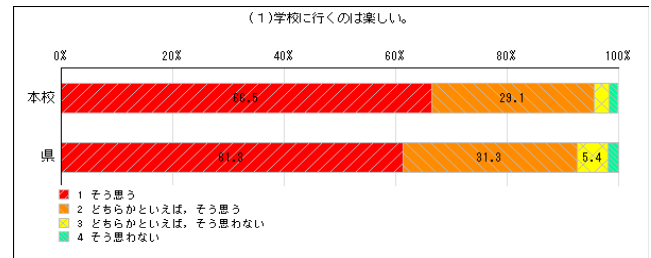
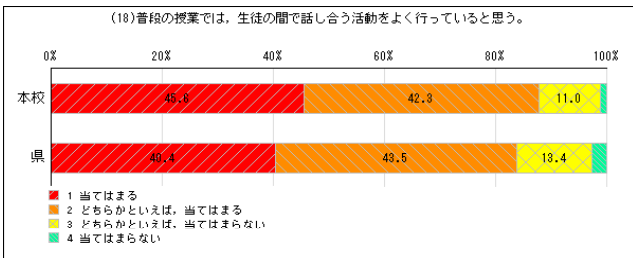
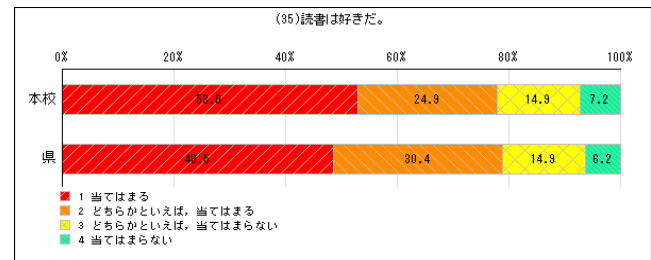
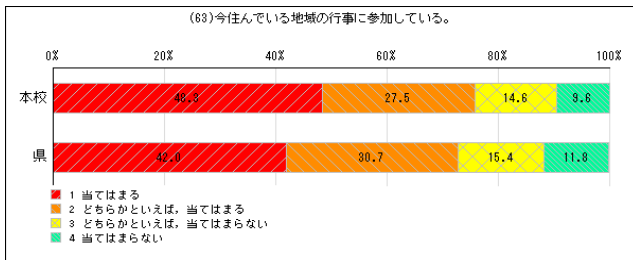
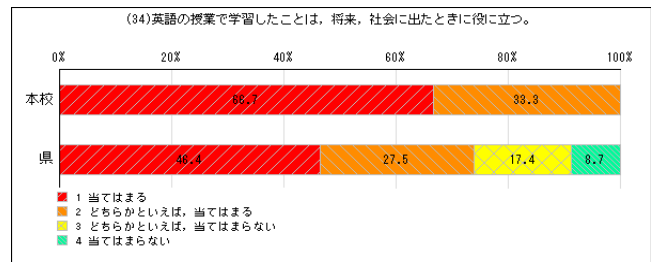
分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項	
知識・理解	県平均と比べると、正答率が下回っているが、各問を見るとほとんどの問題で正答率が8割を超えている。正答率が低いのは、用語を問う問題である。	➡	授業の中でも、数学用語や数学的な表現を使って説明し、用語や意味を確認しながら授業を進める。
技能	県平均よりやや下回っているが、四則計算の正答率が高い。単位変換や比、割合（「量と測定」領域）の定着度が低い。	➡	定着度を高めるために繰り返し学習や小テストを実施する。また、他の単元にも関連づけて学習できる教材などを研究する。
考え方・見方	県平均の正答率より上回ってはいるが、達成率を見ると「要努力」の域である。表現することに抵抗を感じる生徒が多く、無解答率が高い。	➡	学び合い活動を通して、自分の考えを人に伝える機会を増やす。「伝える」「聞く」の活動だけにとどまらず、「書く」指導にも力を入れていきたい。

全国・県学習状況調査における生徒意識調査の結果分析（1年）

分析と改善に向けた具体的取り組み事項

多くの生徒(66.5%)が、「学校に行くのは楽しい。」と答え、学校での生活については好意的に感じているのが分かる。いごちのよい集団づくりを目指したい。また、地域の行事にも積極的に参加していること(48.3%)が同え、地域の教育力を相対的に期待できる地域柄と捉えることができる。さらに、地域、家庭との連携を密にしていきたい。また、本校における「学び合い」や「朝読書」活動が生徒にとっては好意的に捉えており、今後も指導方法の工夫・改善を推進していきたい。

【 数値が特に高かった項目 】



分析と改善に向けた具体的取り組み事項

家庭学習における予習や復習が実施されていない割合が高いことが分かる。また、自分で計画を立て、自宅等において勉強に当てる時間が2時間以上と比較すると、県平均より10ポイント以上低いことが分かった。家庭との連携を深め、学習する習慣と計画的に実施する手立てが必要であると思われる。また、全般的に、各教科における「学習することに対する意義」の項目が低いのが気にかかる。学習することの意義や有用性を感じさせるような指導を目指していきたい。

【 数値が特に低かった項目 】

